

レフリースポーツ

大分県協会 山口 茂朗

参加大会：全国ハンドボール選手権 西地区大会

開催地：広島県 グリーンアリーナ

<大会概要>

本大会は、各ブロック代表の社会人チームが上位を競い合う大会であった。私自身は、B級審査の受験者として参加した。審判会議の中で、これからの上級審査の基準についての講演・演習があったので報告したいと思う。

<講演内容と反省>

「レフリースポーツ上級審査基準は、「心」・「技」・「体」のバランスの取れた人物の育成を目指していききたい」という言葉から講演が始められた。

ここで意味するレフリースポーツの「心」とは、筆記試験に必ず合格することである。今回の審査に向けて十分準備ができたかどうか。つまり、やらなければならないことをきちんとする姿勢が重要だと強調されていた。

会場に入ってからあらゆる場面で協力をしてくれている人々への言葉遣いや立ち振る舞いも、大会全体に対するレフリースポーツの真摯さが問われる大切なことである。参加者全員が満足するために、役割分担をするということで、レフリースポーツは大会運営チームの一員として意識して行動をする重要性がある。

レフリースポーツの「技」とは、7項目ある。

1. 首尾一貫性…2人でも基準が常に同じであること。試合の最初と終わりで基準が変わらないことが大切である。
2. 笛の音色…強弱、長短、方向指示を明確に示すこと。選手にスピーディーなプレーをさせることを意識すること。
3. プレーの評価…つかまれているポストの選手にボールを出すことは、発展性のないプレーである。相手がいる方向にぶつかりに行ったりすることに対して、オフフェンシブファウルにすること。など、選手のプレーを評価し、判定することが重要である。
4. 段階的罰則…接触プレーに対するものも重要であるが、スポーツマンシップの規定に対しても基準を持っておく必要がある。シュミレーションプレーは絶対に許してはいけない。シューターへの目隠しや、マンツーマンをされたときに時にコートレフリースポーツを使って回避するなどというスポーツマンシップに反する行為に関しても判定の理解を深めていく必要がある。
5. ジェスチャーは常に正しく行う必要がある。
6. 任務分担…お互いのいる位置で見える事象が違うことを理解しておくべきである。それは、違う場所で複数の違反が起こる可能性があるため、それぞれの位置で正しく見て判定する必要がある。
7. 判定に関するミスなのか、基準がずれているのかを見極めていく必要がある。

レフリースポーツの「体」とは、試合を運営する集中力と体力を常日頃からトレーニングしていくことが重要である。

今回の審査の結果だけでなく、今後レフリースポーツは、大会運営のチームの一員として参加する責任感と、向上心を持ち続けることの大切さを改めて考えさせられる内容であった。